

2018年10月24日

平成30年度の研究ブランディング事業申請を行い、10月24日にその報告会を開催しました。その際に行なった冒頭のあいさつ(要旨)を掲示します。

研究ブランディング事業申請報告会あいさつ(要旨)

学長 山本 和人

ご多用のところ、お集まりいただき、ありがとうございます。ひと言ご挨拶を申し上げます。

昨年、私が学長になった直後から、当時の副学長であった研究担当の岩崎美智子先生が中心となって、研究ブランディング事業申請への取り組みを始めました。その後、本年度になって、新たに研究担当の副学長をお願いした大学院研究科長でもある峯木眞知子先生に引き継いでいただきました。研究募集を行い、事業テーマを決め、サブテーマを決定いたしました。また、栄養学科澤田めぐみ先生の研究計画を採用させていただき、多くの先生方、職員の方々のお力を得て、事業計画書を提出いたしました。

本日はそのご報告をさせていただくとともに、本学の研究ブランディング事業について、特に研究面での進め方について、ご説明する機会を持たせていただきました。

改めて、事業についてお伝えしたいと思います。東京家政大学の事業計画は、「ひとの生(life)を支える学の構築—健康生活研究の東京家政大学—」、というテーマで、5年間をかけて行うものです。

「東京家政大学」が行ってきている、教育・研究を、「ひとの生(life)を支える学」としてまとめあげていきます。その際、人生を5つのステージに分け、その研究成果を「家政大メソッド」として、家庭・地域・社会に還元するところまで提案していきます。研究のための研究ではなく、人びとの生命・生活・人生(あるいは生涯)という「LIFE」を支えることに役立つものにしていきます。本学を特色づける研究として社会にアピールすることによって、「本学のブランド」として社会に認知され、評価される事業にしていきたいと考えています。

外に向かって、本学の教育と研究を伝え、認知度を高め、同時に、教育・研究の特色を社会に打ち出していく事業になります。

そのためにも、先生方には、本学の向かう方向性を共有していただき、それぞれの先生方のご研究を制限するものではありませんが、本学のブランドにつながるご研究を進めていただくことができると、心強いと考えています。

「健康生活研究の東京家政大学」をアピールするところからスタートしますが、「ひとの生(life)を支える学の構築」は健康生活研究だけで出来るものではありません。3年後には、別なサブテーマでの研究を募集し、本学としての「ひとの生を支える学の構築」を図って

いきます。

この事業が今回の採択から漏れても、東京家政大学として進めなければならない事業として、理事長、理事会にはご理解をいただいています。本学が今これに取り組み、次のステップにつなげていくことが絶対的に必要な事業であり、皆様のご理解・ご協力をお願い致します。

18歳人口の減少に伴い、進学者数の大幅な減少が推定しています。その時に、社会から、また、受験生から、「選ばれる大学」にしていくためにも、本学らしい教育と研究の大学にしていきたいと思えます。